

# 香川の伝統的 工芸品の展



## 香川の伝統的工芸品

※今回出展品目のみ

古くから海上交通の要衝として開けた香川県には、豊かな風土の中で育まれ、人々の手から手へと受け継がれてきた工芸品が数多くあります。これらは、天然の原材料を用い、昔ながらの技術技法によりつくられているもので、今日でも生活の場で愛用され、人々に安らぎと潤いをもたらしています。

県では、これらの全国に誇りうる伝統ある工芸品を「香川県伝統的工芸品」として指定する制度を設け、現在37品目を指定し、その普及を図っています。

今回は制作実演等を通して工芸士や工芸品と身近に接していただくとともに、高度な伝統技術による現代感覚あふれる作品をご紹介します。

■香川漆器  
 ……出展者…香川県漆器工業協同組合  
 佐々木賢治

★経済産業大臣指定伝統的工芸品  
 (昭和51年2月26日指定)  
 香川漆器は、高松藩主が奨励し、玉楮象谷が幾多の技法を開発し基礎を築きました。蒔繪、存清彫漆、象谷塗、後藤塗などの技法を用いた商品は、室内調度品から小物類まで広い範囲に及んでいます。

■欄間彫刻…出展者…香川県欄間彫刻組合  
 小比賀正  
 讃岐の欄間彫刻は、高松藩主松平頼重公を慕って来た飛騨の木工職人によって伝えられたと言われており、白木の美しい木目を利用して、こまやかな細工が施された製品には、時代の風格さえ漂ってきます。

■組手障子  
 ……出展者…香川県アースリイウッド協同組合  
 ……出展者…香川県アースリイウッド協同組合  
 和室の間仕切りとなる障子は鎌倉時代につくられたといわれ、江戸末期には、様々な装飾を加えた障子もつくられるようになりました。その装飾(組手加工)にも工夫が凝らされて現在に至っています。

■肥松木工品…出展者…(有)クラフトアリオカ  
 「肥松」は樹齢数百年の老松の幹の部分で、油分を多く含んでおり、香川県では特に良質のものを産し、木目の美しさと年月の経過につれ赤茶色の艶がでることが特徴で、江戸時代末期から愛好されています。

■志度桐下駄…出展者…志度桐下駄製造組合  
 さぬき市志度は全国に誇る桐下駄の産地です。志度で桐下駄づくりが始まったのは明治40年頃。熟練した職人の手により、約40工程を経てつくられる桐下駄は、木肌のぬくもりをほのぼのと感じさせてくれます。

■讃岐刀彫…出展者…造田一夫  
 青山憲成  
 上野勲  
 天保8年、金毘羅大権現の旭社建立の折、全国から集まった宮大工によって始まったと伝えられる「刀彫」。ノミの刃痕をそのまま仕上げに生かす特徴ある彫刻は、他県では類のない独特な技法とされています。

■菓子木型…出展者…(有)市原  
 菓子木型は江戸時代につくられ始めたといわれ、香川県では明治30年頃からつくられています。樹齢約百年の山桜を用い、花などの図柄を何種類ものノミ彫刻刀で、左右・凹凸を逆に彫つていきます。

■讃岐提灯…出展者…(有)三好商店  
 讃岐提灯は四国八十八ヶ所の奉納提灯として生まれ、極彩色に飾られた提灯が今なお神社仏閣に飾られています。一本の竹ひごを切らずに提灯をつくる「讃岐本掛け」といわれる技法は、香川県独特のものです。

■閑張…出展者…(株)民芸城山  
 寛永年間、明国より帰化した飛来一閑が創案したといわれる閑張は、木や竹でつくった籠や皿などの生地の上に和紙を張り重ね、柿渋を塗って仕上げるため、長年の使用に耐える強さが生まれます。

■丸亀うちわ  
 ……出展者…香川県うちわ協同組合連合会  
 ★経済産業大臣指定伝統的工芸品  
 (平成9年5月14日指定)  
 丸亀うちわは、江戸時代に金比羅宮参拝客への土産品として、(金)印入りの丸柄洪うちわを売り出したことが広まりました。明治期に平柄うちわが開発され、現在、この平柄が丸亀うちわの主眼を占めています。

■竹二刀彫…出展者…西村文男  
 讃岐の竹彫は、香川漆器の始祖・玉楮象谷が確立した「讃岐彫」が起源といわれています。竹の持つ優しさと強さを活かして美しく仕上げられた竹二刀彫は、私たちの生活に安らぎと潤いを与えてくれます。

■古式畳…出展者…香川県古式畳協同組合  
 平安時代頃に朝廷をはじめ、公家や武家、寺院、神社などで、格式空間を形づくるために生み出された古式畳は、京都・大阪から讃岐の地に製造技法が伝えられ、現在も神社や茶席などで用いられています。

■讃岐装飾瓦…出展者…神内俊二  
 奈良・室町時代の窯跡が県内で数多く発見され、古くから瓦づくりが行われていたことを物語っています。江戸後期に瓦が民家の屋根にも普及すると、瓦づくりはますます盛んになり、今日まで伝承されています。

■打出し銅器…出展者…大山柳太  
 型取りした銅板に熱を加えながら、木槌や金槌でたたいて目的の形に仕上げている打出し銅器は、地金がしまり丈夫で熱伝導率が高いため、湯沸かしなどに適しており、使い込むほどに深い味わいが出てきます。

■保多織…出展者…(株)岩部保多織本舗  
 高松藩主松平頼重公の命を受け京都の織物師・北川伊兵衛常吉が創案した二種独特の絹織物に始まるといわれる保多織は、いつまでも丈夫なことから「多年を保つ」という意味で命名されたといわれています。

■讃岐のり染…出展者…(有)大川原染色本舗  
 のり染は、もち米でつくった防染のためののりを、筒描きや型紙により紋様状に布地に置き、藍がめにつけたり、刷毛で引染めして染め上げるもので、暖簾や法被、ゆたなど様々な染物がつくられています。

■張子虎…出展者…真鍋佳則  
 張子虎は、中国の虎王崇拝が日本に伝わり、つくり始められたといわれており、虎の武勇にちなんで、子どもの健やかな成長を祈る気持ちから、端午の節句や八朔祭の飾り物として、古くから愛用されてきました。

